

# 住民で作るデジタル防災地図と防災アプリプロジェクト調査事業

提案者	静岡県牧之原市
実施地域	静岡県牧之原市
事業概要	南海トラフ巨大地震による地震、津波被害が懸念される地方公共団体として、平成24年度ICT街づくり推進事業における豊田市の成果を参考としつつ、平時／非常時における住民参加型の防災・減災システムの導入に向けた課題等の調査・検討を行う。

- ①地域の状態を把握するための情報収集
- ②自律と連携による地域情報の見える化
- ③レイヤーごとの情報提供

## 地域住民による検証

- ・近くの避難所の位置、近隣地域の避難所などの位置確認
- ・災害時(台風含む)の危険個所の確認
- ・災害時における必要情報
- ・議論しながら「地域コミュニティ強化」



## Facebookによる意見収集

自治体や市民、各種機関やマスコミも平時には情報を投稿  
↓  
「情報地図」に市民の手で有用な情報を蓄積。  
市民の日常生活に欠かせない存在に育てていく。

情報提供



避難所(近隣地区を含む)の位置、不審者情報、事故情報、危険個所等を地図に記載して配信

例

危険個所



ウェブサイト

ユーザの属性に合わせた情報配信

ユーザ(地域住民+観光客)

障がい者、高齢者、乳幼児、観光客



防災携帯アプリの利用



防災携帯アプリ

- ・事前に収集した情報(避難所、危険個所等)を重畳した地図を表示
- ・現在の被害状況に基づいて避難所までの経路を提示(要検討)

最短距離経路、階段などが無い歩きやすい経路、危険地域を避けた経路等の複数の経路を提示

避難シミュレーションによる事前検証の必要あり

災害弱者支援の確立 → 全体の被害軽減につなげる

